

令和元年度病虫害発生予察予報第6号（9月）

令和元年9月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ トビイロウンカ 斑点米カメムシ類	<u>多(中央、西)</u> 、やや少(中西)、やや少(東) <u>多(東、中央、中西)</u> 、少(西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央、中西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(中央)、少(東、中西) <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(中央、中西、西)</u> 、 <u>平年並(東)</u> <u>多(県下全域)</u>
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>多(西)</u> 、少(東、中央、中西) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>平年並(東)</u> 、やや少(東) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、西)、少(中西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東、西)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 8 月 29 日発表）

＜特に注意を要する事項＞ 8 月 31 日から 9 月 30 日

期間のはじめは降水量が多く、日照時間の少ない状態が続く見込みです。

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40% です。

週別の気温は、1 週目は、平年並の確率 50% です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。3 ～ 4 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	30	30	40
		日照時間	40	30	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	20	50	30
2 週目		20	40	40
3 ～ 4 週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：8 月 31 日（土）～ 9 月 30 日（月）

1 週目：8 月 31 日（土）～ 9 月 6 日（金）

2 週目：9 月 7 日（土）～ 9 月 13 日（金）

3 ～ 4 週目：9 月 14 日（土）～ 9 月 27 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや少（中西部）、少（東部）

根 拠

(1) 穂いもちは、8 月の調査では県中央部で平年よりも多く、西部で平年並、その他の地域では少なかった。また、葉いもちは、西部で平年よりも多く、その他の地域では少なかった。

(2) 9 月のはじめは降水量が多く、日照時間の少ない状態が続き、気温は平年並～高めと予想されており、感染に好適な条件が予想されるため、先月よりも発生が増加するものと考えられる。

対 策

(1) QoI 剤耐性菌発生を防止するため、使用回数は作期を通じて 1 回とする。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多（東部、中央部、中西部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は、県東部、中央部、中西部で平年よりも多く、西部では少なかった。発生程度は、県下全域で平年以下であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多く、日照時間の少ない状態が続き、気温は平年並～高めと予想されており、感染に好適な条件が予想されるため、先月よりも発生が増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では薬剤防除を行う。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年並、その他の地域では平年よりも少なかった。発生程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多いものの、全般的には晴れの日が多く、気温は平年並～高めと予想されており、増殖に好適な条件となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので、薬剤防除を行う。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で多かったが、その他の地域は平年以下であった。また、発生程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) セジロウンカは、ほ場への定着性が低く、出穂期以降はほ場から離脱するため発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度になった場合には防除する。

5) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや多（中央部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は県中西部、西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部では少なかった。発生程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多いものの、全般的には晴れの日が多く、気温は平年並～高めと予想されており、本虫の増殖に好適となるため、発生は増加すると考え

られる。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

6) トビイロウンカ

予 想 発生量：多（中央部、中西部、西部）、平年並（東部）

根 拠

(1) 8月の調査では、発生面積は県中央部、中西部、西部で平年よりも多く、東部で平年よりもやや少なかった。発生程度は、中央部で平年よりもやや高く、その他の地域では平年並であった。また、他県でも多発しているところが多い。

(2) 9月のはじめは降水量が多いものの、全般的には晴れの日が多く、気温は平年並～高めと予想されており、本虫の増殖に好適となるため、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 株元に寄生するので、株元に薬剤が十分かかるように防除する。

7) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中央部、西部で平年よりも多く、中西部でやや多かった。発生程度は中西部で平年並、その他の地域は平年よりも高かった。

(2) 9月のはじめは降水量が多いものの、全般的には晴れの日が多く、気温は平年並～高めと予想されており、本虫の増殖に好適となるため、密度は高まると考えられる。

対 策

(1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。

(2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は平年並であった。

(2) 9月のはじめは降水量が多く、気温は平年並～高いと予想されており、感染に好適な条件が予想されているものの、時期的に果実の感染リスクは低いことから現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度はやや低めであった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多く、気温も高い確率が高いと予想されており、感染に好適な条件が予想されていることから、発生が増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では発生面積は平年よりもやや多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多いものの、全般的には晴れの日が多く予想されていることや、高温期を過ぎ本虫の増殖に好適な時期を迎えるため発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（西部）、少（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、西部で発生が見られた。西部では発生面積が平年よりも多く、東部では少なかったが、発生程度はいずれも平年並であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多く、気温は平年並～高いと予想されており、感染に好適な条件が予想されているものの、時期的に果実の感染リスクは低いことから現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、平年並（東部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部で平年に比べ多く、東部でやや少なく、西部で少なかった。発生程度は中西部で平年よ

りも高かったが、その他の地域は平年以下であった。

- (2) 9月のはじめは降水量が多く、気温も高い確率が高いと予想されており、感染に好適な条件が予想されていることから、発生が増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（中央部）、やや少（東部、西部）、少（中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、中央部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、他の地域では少なかった。発生程度はいずれの地域とも平年並以下であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多く、気温も高い確率が高いと予想されていることや、台風の影響も予想されるなど、感染に好適な条件が予想されていることから、発生が増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部、西部では少なかった。発生程度はいずれの地域とも平年以下であった。
- (2) 9月のはじめは降水量が多いものの、全般的には晴れの日が多いと予想されていることや、高温期を過ぎ本虫の増殖に好適な時期を迎えるため発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.